

# ホームドクター

621

## 胸痛にはどんな病気があるの？

胸痛はいろいろな病気から起こります。胸部には肺と心臓が収まっていますが、腹部の胃やすい臓などの病気から胸痛が起こることもあります。具体的に胸痛を来す疾患は①心臓や血管の病気(狭心症、心筋梗塞、大動脈解離) ②肺や胸膜の病気(肺炎、胸膜炎、肺がん、気胸、肺塞栓) ③神経・筋肉の病気(肋骨骨折、肋間神経痛、带状疱疹、悪性腫瘍) ④消化器の病気(逆流性食道炎、胆のう炎、すい炎) ⑤心因性によるもの(心臓神経症)があります。アメリカの大学病院の救急外来の統計では、心臓由来の痛みが67%、呼吸器疾患

越谷市医師会  
埼玉東部循環器病院附属  
さくらクリニック  
☎964-1222  
り たけし  
李 武志

由来の痛みが14.9%、逆流性食道炎による痛みが2.5%、心因性による痛みが6.6%と報告されています。一方、一般病院の外来では心因性の胸痛の患者さんがおよそ70%~80%を占めています。中でも多いのが冠れん縮性狭心症と呼ばれ、冠動脈がけいれんして細くなり胸痛を発症する病気です。思春期の子どもから始まり若い世代にも多く見られます。肉体的および精神的なストレス、飲酒、喫煙などが原因になります。冠れん縮性狭心症は心筋梗塞に発展することはまれです。

胸痛の原因を探るためには、どのような痛

みか(刺すような痛みか、鈍い痛みか、圧迫されるような痛みか、締めつけられるような痛みか)、場所はどこか(左胸部か、前胸部か、背部か、首や肩に放散するか)、どのくらい持続するか(瞬間的か、数分か、数時間からそれ以上か)、どのような時に痛むか(動いた時か、安静時か、体位を変えた時か、呼吸との関連があるか)、ほかに症状があるか(呼吸困難、発熱、冷や汗、吐き気、おう吐)などを問診し整理すると、原因が分かることがあります。

胸痛を来す疾患で致死性の高いものとして急性大動脈解離・急性冠症候群・急性肺血栓塞栓症があり、それらは“Killer chest pain”と呼ばれています。心臓超音波検査や冠動脈造影CT、胸部CTなどを行い診断します。診断は循環器専門医であればそれほど難しくはありません。急激に病状が進行することがありますので、早めに受診をしてください。



## 健(検)診・相談

コバトン健(検)診で埼玉県コバトン健康マイレージポイント1,000ポイントを付与

- ▶申請期間：12月27日(水)まで
- ▶申込み：電子申請で申し込み

### ○がん検診の受診の勧め合い

▶対象：市内在住で埼玉県コバトン健康マイレージに参加している、次の①・②のいずれかに該当する方。①がん検診を受診し、家族・友人等に受診を勧めた ②家族・友人等に勧められてがん検診を受診した。付与は1人1回のみ

### ○特定健診の受診

▶対象：市内在住で埼玉県コバトン健康マイレージに参加している、加入中の健康保険が実施する令和5年度特定健診を受診した方  
\*越谷市の国民健康保険・後期高齢者医療制度の加入者は申請不要



がん検診



特定健診

歯科健診・相談～歯つらつ！ お口の健康～

- ▶日時：8月23日(水)、13:30～15:00
- ▶会場：児童館コスモス
- ▶対象：お子さんと保護者20人
- ▶申込み：電子申請または電話で申し込み



栄養士にきく！ 食生活なんでも相談

- ▶日時：9月14日(木)、9:00～12:00
- ▶対象：市内在住の方3人
- ▶申込み：電子申請または電話で申し込み



## 薬の相談日

ふだん、服用している薬について分からないことや飲み合わせ等、疑問に思っていることを薬剤師に直接相談することができます。

8/22(火)・9/5(火)  
13:00～15:00

開催日の1週間前までに電話で下記へ  
☎越谷市薬剤師会事務局(東越谷10-31保健センター3階)☎960-4100

## 女性の方へのお知らせ

8月31日(木)まで 乳がん検診(施設)

会場 視触診検査：実施医療機関、マンモグラフィ検査：地区センター等 乳がん検診詳細  
申込み 視触診検査：事前に実施医療機関へ、マンモグラフィ検査：視触診検査時に予約

対象の方へ6月下旬に子宮頸がん・乳がん検診無料クーポン券を送付しました

子宮頸がん予防(HPV)ワクチン 接種間隔にご注意ください！

\*ワクチンの種類や接種開始年齢によって接種間隔や接種回数異なります。医師の指示に従い、適切な間隔で接種してください。4価・9価ワクチン(初回接種が15歳以上)の2回目と3回目の間隔は3カ月以上必要です

☎健康づくり推進課☎960-1100



予防接種詳細

## 健康情報コラム

### 熱中症予防対策をして元気に夏を乗り切ろう！

埼玉県立大学 保健医療福祉学部

看護学科 助教 宮部 明美

今年も暑い夏がやってきました。埼玉県で暑い街といえば熊谷がよく知られていますが、越谷も耳にすることが増えてきました。令和4年8月に越谷で最高気温が35℃以上を超えた猛暑日は6日、30℃以上の真夏日は21日でした(気象庁ホームページ)。昨年まではコロナ禍のため室内で過ごす方が多かったと思います。今年は新型コロナウイルスが5類に移行してから初めての夏休みであり、ご家族や友人同士で海や山のレジャーを計画されている方も多いのではないのでしょうか。

熱中症とは、高温多湿な環境に長くいることで、体内の水分や塩分のバランスが崩れ、体温調節機能が働かなくなり、体内に熱が籠もった状態のことです。コロナ禍ではすっかりマスク生活が定着していましたが、マスクを着用することで体に熱が籠もりやすくなります。また、マスク内の湿度が高くなり、口の渴きを感じにくくなります。そのため、夏の暑い屋外でマスクを着用することにより熱中症のリスクが高まります。

令和4年、越谷市で熱中症により救急搬送された方は175名でした。そのうち高齢者は55%を占めています。高齢者は加齢による感覚機能の低下により暑さや口の渴きを感じにくくなるため、特に注意が必要です。軽い散歩を含めて屋外で過ごす際はマスクを外すようにしましょう。

ニュースや天気予報などで熱中症警戒アラートが発表されたときは特に危険な暑さが予測され、熱中症のリスクが高い状況です。その際には外でのレジャーや作業はできるかぎり控えましょう。涼しい時間帯に外での作業をするなど工夫をしてもよいですね。ぜひ、熱中症対策をして、元気に暑い夏を乗り切りましょう！

気象庁ホームページ 過去の気象データ検索

<https://www.data.jma.go.jp/obd/stats/etrn/>

越谷市ホームページ 令和4年度熱中症による救急搬送状況

<https://www.city.koshigaya.saitama.jp/divlist/files/files/reiwa4.pdf>